

kuraray

株主の皆様とのコミュニケーションツール

クラレ通信

第139期 2019年1-6月期 報告書

2019年1月1日～2019年6月30日

証券コード:3405

CONTENTS

株主の皆様へ	01
決算ハイライト	02
クラレグループトピックス	05
クラレの事業所探究 倉敷事業所	07
株式情報	10
お知らせ	10
会社概要	巻末



株主の皆様へ



代表取締役社長

伊藤 正明

2019年度第2四半期について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2019年1月1日～2019年6月30日)における世界経済は、各国において様々な財政政策が打ち出されましたが、米中貿易摩擦の激化による貿易の縮小や中国経済成長の鈍化、加えて欧州における政治混乱の長期化や中東の地政学的リスク増大などから減速感が強まりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は前年同期比13,963百万円(4.6%)減の287,419百万円、営業利益は8,348百万円(23.0%)減の27,921百万円、経常利益は9,885百万円(28.6%)減の24,685百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,334百万円(41.3%)減の13,254百万円となりました。

2019年度通期の業績予想については、足元の世界経済の状況および事業環境を踏まえ、2019年5月15日の第1四半期決算公表時から変更し、売上高6,000億円、営業利益670億円、経常利益625億円、親会社株主に帰属する当期純利益380億円としています。

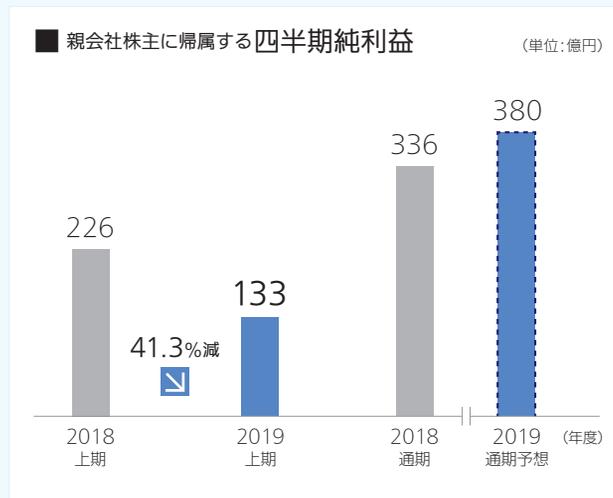
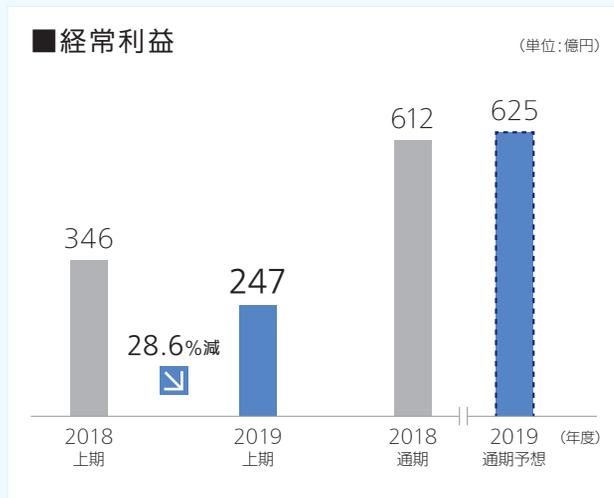
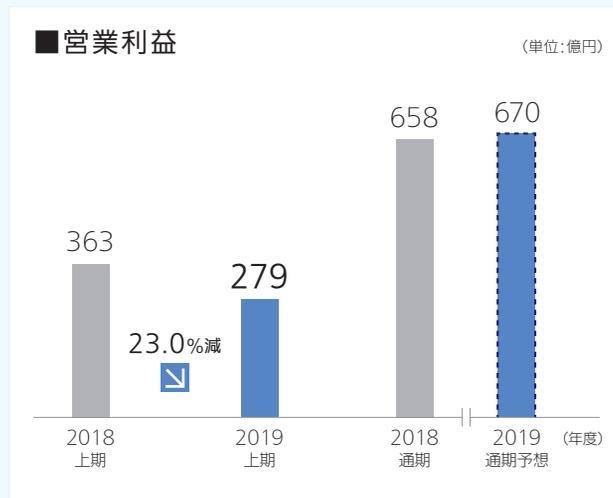
また、当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置付け、2018年度よりスタートした中期経営計画「PROUD 2020」期間中においては、持続的な業績向上を通じた利益還元の増加を基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、且つ1株につき年間配当金40円以上としています。中間配当金は期初に予定いたしました1株当たり20円とさせていただきます。当期の年間配当金につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の予想値380億円を前提に期初公表通り1株当たり42円とさせていただきます予定です。

当社は、当年度に上限を500万株(100億円)とする自己株式の取得を決定し、取得を進めております。(取得期間:2019年2月14日～2019年12月26日)

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

主要科目

当社の2019年上期業績は、世界的な景気減速の影響を受け、多くの事業で販売が減少しました。また、一部で発生した生産の不具合やそれに伴う操業低下による影響を受けた結果、減収減益となりました。



各種前提

- 2018年度上期:米ドル109円、ユーロ132円、国産ナフサ48千円/kl
- 2018年度:米ドル110円、ユーロ130円、国産ナフサ51千円/kl
- 2019年度上期:米ドル110円、ユーロ124円、国産ナフサ45千円/kl
- 2019年度:米ドル110円、ユーロ125円、国産ナフサ45千円/kl

財務情報

連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

	2019年度上期	2018年度上期
売上高	2,874	3,014
営業利益	279	363※
経常利益	247	346
親会社株主に帰属する四半期純利益	133	226
各種前提		
円/ドル	110	109
円/ユーロ	124	132
国産ナフサ価格(千円/kg)	45	48

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

	2019年度上期	2018年度上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	374	308
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 495	△ 1,444
財務活動によるキャッシュ・フロー	35	1,098

連結貸借対照表(要約)

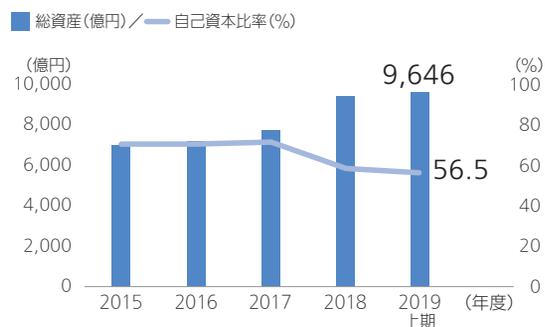
(単位:億円)

	2019年6月末	2018年12月末
資産の部		
流動資産	3,948	3,949
固定資産	5,698	5,522
資産合計	9,646	9,471
負債の部		
流動負債	1,537	1,448
固定負債	2,539	2,353
負債合計	4,077	3,801
純資産の部		
株主資本	5,334	5,313
その他の包括利益累計額	116	242
その他	120	116
純資産合計	5,569	5,670
負債及び純資産合計	9,646	9,471

海外売上高推移



総資産・自己資本比率



●損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

※2018年度末にカルゴン・カーボン社の企業結合に係る暫定的な会計処理が確定したため、前年同期実績の数値は会計処理の確定影響を遡及して適用しています。

セグメント別の概況

ビニルアセテート

ポパール樹脂は景気減速により販売量が減少しました。光学用ポパールフィルムは大型ディスプレイ向けが堅調も、第1四半期に発生した一部生産トラブルによる操業低下と偏光板の在庫調整の影響を受けました。PVBフィルムは、〈セントリグラス〉は堅調でしたが、主に自動車用途で販売量が減少しました。EVOH樹脂〈エパール〉は自動車用途の需要減少のほか、食品包装用途の販売も低調でした。水溶性ポパールフィルムは数量が伸長しました。



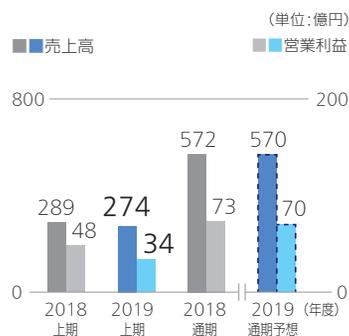
繊維

人工皮革〈クラリーノ〉はラグジュアリー商品用途が引き続き堅調に推移しましたが、靴用途の販売量が減少しました。ビニロンはゴム資材向けの販売が増加したものの、景気減速の影響を受けてセメント補強用の輸出が低調でした。また、クラフレックスは汎用品の数量は減少しましたが、高付加価値品の販売が拡大しました。



イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカルは堅調に推移しましたが、熱可塑性エラストマー〈セプトン〉は中国を中心に需要が縮小し販売量が減少しました。耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉は車載用コネクタ向けの新規採用は進んだものの、電気・電子デバイス向けは世界的な需要停滞により数量が減少しました。



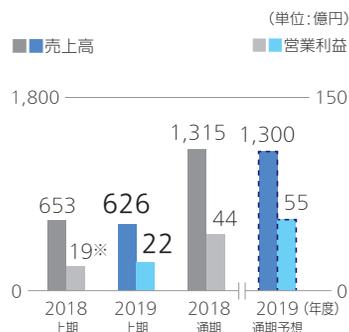
トレーディング

スポーツ衣料用途の販売が堅調に推移したほか、高性能原糸の輸出も拡大しました。一方、樹脂・化成成品関連は主に中国向けの輸出が減少しました。



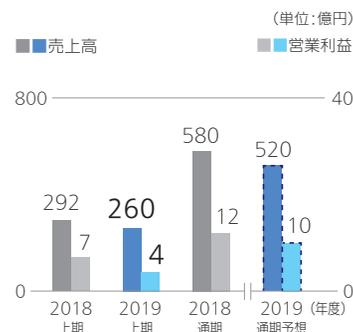
機能材料

メタクリルは市況悪化に加え、樹脂の販売が伸び悩みました。メディカルは歯科材料の審美修復関連製品を中心に堅調に推移しました。カルボン・カーボンは、第1四半期にユーティリティの不調による操業低下の影響を受けましたが、炭素材料は高付加価値品の販売が拡大しました。



その他

当セグメントはアクア事業、新事業のほか、エンジニアリング事業など国内関連会社を含んでいます。当上期は、国内関連会社の販売が低調であったのに加え、研究開発費等が増加しました。



TOPICS

2019年1-6月のクラレグループの
主なニュースをご紹介します。

5月



デトロイト事務所の外観

米国デトロイト事務所の開設

米国の主要自動車メーカーが本社を構え、多くの自動車部品メーカーが集まるミシガン州ノバイに、新たにデトロイト事務所を開設しました。今後、高耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉をはじめとする当社自動車向け製品の市場開拓や販売を加速させるとともに、クラレグループの自動車業界におけるプレゼンスを一層高めていきます。

2月

メルトブローン不織布 生産設備の増設



メルトブローン不織布

高機能不織布の需要拡大に対応するため、クラレクラフレックス株式会社の岡山工場に、メルトブローン不織布の生産設備を増設することを決定しました。(生産能力:年産900トン、稼働時期:2020年後半予定)メルトブローン不織布は極細繊維により構成される不織布で、その緻密な構造により、マスク用をはじめ各種フィルターなどに使用されています。

3月



第3弾CMのカット

「クラレの真ん中を知る時が来た」シリーズCM 第3弾を放映

2018年からスタートした企業広告キャンペーンでは、当社グループが、事業や製品を通じて社会課題の解決に貢献していることを、社員の「思い」として紹介しています。第3弾となる本作は、クラレノリタケデンタル(株)の「歯科材料」がテーマ。「歯科材料を進化させて人々の健康寿命を延ばしたい」と力強く語る社員の姿を通じて、クラレグループが熱い思いを持った「人」の集まりであるを知ってもらえることも願っています。

当社企業広告
キャンペーンサイト <https://mannaka.kuraray.co.jp>

5月

本社の名称変更について

当社は東京・大阪の両本社制を採用していましたが、現在、両拠点が担っている機能・役割に合わせ、5月より東京本社の名称を「本社」、大阪本社の名称を「大阪事業所」へ変更しました。なお、両拠点の住所、電話番号に変更はありません。

6月



PLANTIC™〈プランティック〉を使用したコーヒーパウチ

「地球へ社会へ未来へ G20 イノベーション展」に出展

経済産業省、環境省主催の「地球へ社会へ未来へ G20 イノベーション展」に出展。同展は、『G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合』に合わせ開催されたイベントで、環境対応型包装材料として、優れたガスバリア性を持ち、フードロス削減にも貢献するバイオマス由来のバリア材PLANTIC™〈プランティック〉を紹介しました。

6月



クラレヨーロッパモラヴィアの外観

チェコ共和国で 〈セントリグラス®〉の生産を開始

チェコ共和国のクラレヨーロッパモラヴィアは、合わせガラス用アイオノマー樹脂製中間膜〈セントリグラス®〉の生産を開始しました。〈セントリグラス®〉は一般的な合わせガラス用中間膜に比べ、100倍の硬度、5倍の強度を誇り、優れた透明度を併せ持ち、世界各地の高層ビルなどをはじめ、著名な建築物、構造物への採用が進んでいます。

6月



ベクスター®FCCL

銅張積層板〈ベクスター®FCCL〉の 量産試験設備導入・サンプル出荷開始

新たに鹿島事業所内に液晶ポリマーフィルムを用いた銅張積層板〈ベクスター®FCCL〉の量産試験設備を導入し、同サンプルの出荷を開始しました。液晶ポリマーフィルムは、スマートフォンなど電子機器類や車載向け高速通信デバイスの電子回路基板として、今後さらなる市場拡大が見込まれます。昨年に生産設備増強を行った西条事業所と合わせた生産能力は、2020年後半に180万㎡/年となる見込みです。

クラレの 事業所探究 シリーズ



商品開発および生産技術の両面で
クラレを支える

倉敷事業所



日本を代表する水島臨海工業地帯に位置するクラレ倉敷事業所は、クラレグループを商品開発および生産技術の両面で支える事業所です。また、液晶ディスプレイに欠かせない光学用ポリアルフィルムをはじめ、人工骨の〈アフィノス〉、〈リジェノス〉、各分野の様々な原料となる特殊ポリエステル繊維、水の浄化用工業膜(高性能膜モジュール)などを生産しています。



主な製品群 : 世界トップシェア製品



光学用ポリアルフィルム

●機能・特徴
偏光フィルムの性能に重要な光の制御と、高い透過率の特性を持つフィルムです。

●用途
大画面テレビ、タブレット端末などの液晶ディスプレイに欠かせない偏光フィルムに使われています。

●倉敷事業所生産能力
10,000万㎡/年(+3,200万㎡/年、2019年第4四半期稼働予定)



〈アフィノス〉、〈リジェノス〉
人工骨

●機能・特徴
生体組織が侵入しやすい気孔を有しており、自家骨の代替を目指した人工骨です。

●用途
病気がけがで骨が欠損した症例の治療に使われています。

●倉敷事業所生産能力
非公表



特殊ポリエステル繊維

●機能・特徴
極細形状により緻密な構造を形成できる繊維です。

●用途
衣料、産業資材分野、不織布の原料として使われています。

●倉敷事業所生産能力
12,000t/年



工業膜
(高性能膜モジュール)

●機能・特徴
超純水、飲料水、無菌水の製造や工程水・排水の回収など幅広い領域において使用される高性能なろ過膜です。

●用途
産業・水道・医療の各分野での水の浄化に使われています。

●倉敷事業所生産能力
300,000㎡/年

倉敷事業所の これまでの歩み

- 1928年
レーヨン
フィラメント
[2001年生産中止]
- 1964年
ポリエステル
ステーブル
- 1972年
エパール
フィルム
[1985年移転]
- 1980年
歯科材料
[2015年移転]
- 1981年
人工腎臓用中空糸
[2007年生産中止]
- 1985年
コンタクトレンズ
- 1987年
工業膜
[2005年生産中止]

倉敷事業所の 特徴

新事業創出のための生産・開発拠点

倉敷事業所は、1928年にレーヨンフィラメントの生産を倉敷市酒津地区でスタートしました。その後、1956年にはレーヨン事業のさらなる拡大を目指し、倉敷市玉島地区に生産拠点を新設しました。もともと繊維中心の事業所でしたが、光学用ポパールフィルムをはじめ新たな事業が展開され、さらに当社創業の地である酒津地区から大部分の機能が玉島地区に移管されたことで、生産と開発の両方を担う拠点として存在感が高まっています。特に2007年に新設された「生産・技術開発センター」には、海外を含む各事業所の生産プロセスの改善や商品開発に取り組む組織と人員が結集しており、当社グループの“頭脳”としての役割を担っています。新事業の創出や既存技術の強化・拡大に、倉敷事業所の位置づけはますます重要なものになっています。

PICKUP

生産技術開発と サーマルリサイクル

グループの生産技術開発を担う 生産・技術開発センター

クラレグループの生産技術開発の中核として、既存事業の拡大や新規事業の創生に向けて取り組んでいます。シミュレーションや製品の評価計測など、高い技術を持っており、さらなる向上のため日々磨きをかけています。また最近では海外と連携したテーマが急速に増えており、実践を通して、グローバルに活躍できる人材の育成にも力を入れています。



CO₂削減に貢献する 環境対応ボイラー

1987年に稼働した循環型流動層ボイラーは、燃焼効率がよく、様々な種類の燃料を用いることができます。地球温暖化防止に有効とされるバイオマス燃料も利用しており、大幅なCO₂削減に貢献しています。また、事業所内で発生する廃プラスチック全てをボイラー燃料として使う、「サーマルリサイクル」も推進しています。



働き方改革推進中!

多様性があり、働きやすい職場づくりを目指し、倉敷事業所では様々な取り組みを推進しています。今回、その一部をご紹介します。

働きやすい職場づくりの一環として、「信頼感」「連帯感」「誇り」を向上するための施策に取り組んでいます。「誇り向上活動」では、「部署紹介ショーケース」活動を行い、食堂に展示スペースを設け、毎月部署持ち回りで自部署の製品や技術などを紹介しています。気軽に学べる展示を心掛け、各部署で工夫を凝らし、部署内・部署間の交流にも効果を上げています。また、社員の家族に向けた職場見学会や「世のため人のため、他人(ひと)のやれないことをやる」というクラレに受け継がれる思いを学習する場を設けるなど、参加しやすい活動を通して、誇り向上に繋がるようにしています。



●1989年 ●1989年 ●1998年 ●2004年 ●2005年 ●2006年 ●2007年 ●2013年

メルトブローン
不織布
[1996年移転]

面ファスナー
[2002年移転]

サーマル
リサイクル
開始

バイオマス発電
開始

光学用
ポパールフィルム

〈クラリスタ〉

生産・技術開発
センター竣工

バイオマテリアル
(人工骨)





事業所長に聞く

クラレを支える 倉敷事業所の様々なチカラ

執行役員 倉敷事業所長 松崎 一朗

Q1 | 安全への取組みを 教えてください

A 「安全は全ての礎」を行動原則に、設備の本質安全化、新入社員等の業務経験が浅い社員を中心にした教育など、地道な活動を続けています。一例として、「自らの責任で自分の身を守る意識」向上のために、各活動に「考える」「見える」「振り返る」要素を取り込んでいます。また、社員の安全に関わる意識・知識・技能を客観的に評価するための独自のアンケート、それに基づく面談を通して、課題認識と対策も進めています。

Q2 | 品質への取組みを 教えてください

A 事業所では高付加価値の製品を生産・開発しており、顧客の要求を正確に把握し、品質管理システムを適正に機能させることに注力しています。顧客の様々な種類のニーズに対応するために、各部署特有の品質認定を取得すると共に、各事業部が品質管理に責任を持って取り組んでいます。

Q3 | 地域社会とのかかわりについて 教えてください

A 地域社会の一員である意識を高く持ち、共存・共生を重視して多くの取り組みを続けています。地域貢献活動としては、小学生対象の「おもしろかがく館」や「環境教育」、「サッカー交流会」や「球技大会」、また、事業所周辺地域の清掃活動などを長年に渡り続けています。とりわけ、毎年の観覧者が1万人を超える「クリスマスファンタジー」は、地域の風物詩となっています。さらに最近では、事業所の総合防災訓練に周辺住民の方にも参加いただき、地域防災にも貢献しています。

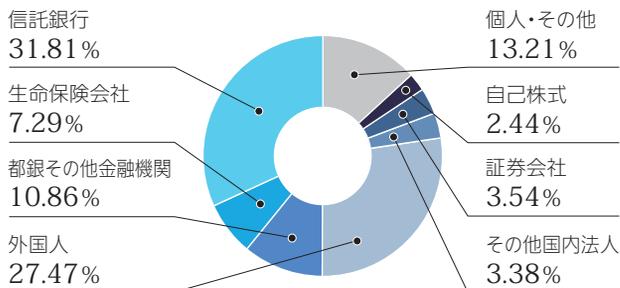
Q4 | 今後どのような事業所を目指す のか教えてください

A 2026年の創立100周年を見据えて、「共に創ろう、価値ある未来を!! 誇りあふれるクラレ倉敷」をスローガンとして、「安全・安心で、活気に満ちた」、「知恵を融合し、創造を世界に広げる」、「働く誇りにあふれ、地域とともに成長する」事業所を目指しています。

■株式の状況

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,000,000,000株	354,863,603株	50,711名

■株主構成 (持株比率)



■投資家向けページのご案内



投資家情報

当社Webサイト内の投資家向けページでは、業績・財務情報の提供に加え、決算説明会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。ぜひご覧ください。

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレ 検索

■株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

お知らせ

2020
CALENDAR
PRESENT

応募締め切り
11月30日(土)
(当日消印有効)

「2020年版 クラレグループカレンダー」 プレゼントのご案内

2019年6月末時点の株主様のうち、ご希望いただいた全ての方にクラレグループカレンダーをプレゼントいたします。

2020年のカレンダーは、2018年6月に当社社員になったスキージャンパーの高梨沙羅選手が、遠征の先々で自らカメラに収めたお気に入りの写真で作り上げました。世界各国で撮った12枚をお楽しみいただくと共に、高梨沙羅選手の今後の活躍にもご注目ください。

カレンダーをご希望の株主様は、クラレ通信に添付されている応募はがきにお名前やご住所等の必要事項をご記入の上、応募締め切りの**11月30日(土)**までにご投函をお願いいたします。(当日消印有効)

なお、カレンダーの発送は11月上旬より順次開始いたします。

⚠️ ご応募に関する注意事項

- 応募締め切りは**11月30日(土)**といたします。(当日消印有効) 締切日以降のご応募につきましてはお受けできませんので、あらかじめご了承ください。
- カレンダーのお届け時期・時間指定はできません。
- はがきを紛失した場合、再発行はできません。
- お送りするカレンダーは株主様1名につき1部とさせていただきます。
- 発送は日本国内に限らせていただきます。
- **フリーマーケットやオークションへの出品はご遠慮ください。**

お届けについての目安

- 11月上旬より、順次発送いたします。
- 諸般の事情により、予告なく発送が遅れる場合がございます。

2019年12月末株主優待(オリジナルカタログギフト)についてのご案内

2019年12月末時点の株主名簿で1,000株以上保有の株主様に当社グループの製品を使用した商品などを掲載したオリジナルカタログギフトを贈呈します。

1,000株以上3年未満保有の方には3,000円相当、1,000株以上3年以上保有の方には10,000円相当のカタログギフトをお届けします。

なお、カタログギフトは2020年3月末の発送を予定しております。

PREMIUM
GIFT





2019 Constituent
MSCI ESG
Leaders Indexes



2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数



2019 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

クラレは世界的なESG投資指数の構成銘柄に選定されています。

会社概要

社名	株式会社クラレ
英文社名	Kuraray Co.,Ltd.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2018年12月31日現在)
本社所在地	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
webサイト	https://www.kuraray.co.jp/

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
イソブレン	イソブレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、炭素材の製造・販売
繊維	人工皮革、ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

役員(2019年6月30日現在)

代表取締役社長	伊藤 正明
代表取締役・専務執行役員	松山 貞秋
取締役・専務執行役員	久川 和彦
取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役・常務執行役員	中山 和夫
取締役・常務執行役員	阿部 憲一
取締役・常務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	川原 仁
取締役・常務執行役員	多賀 敬治
取締役(社外取締役)	浜口 友一
取締役(社外取締役)	浜野 潤
取締役(社外取締役)	藤本 美枝
常勤監査役	雪吉 邦夫
常勤監査役	山根 幸則
監査役(社外監査役)	永濱 光弘
監査役(社外監査役)	谷津 朋美
監査役(社外監査役)	小松 健次
専務執行役員	豊浦 仁
常務執行役員	柏村 次史
常務執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
常務執行役員	高井 信彦
執行役員	大村 章
執行役員	P. スコット ベニング (P. Scott Bening)
執行役員	スティーヴン コックス (Stephen Cox)
執行役員	津軽 利紀
執行役員	高野 浩一
執行役員	尾松 俊宏
執行役員	鈴木 一
執行役員	中村 育雄
執行役員	松崎 一朗
執行役員	川原 孝春
執行役員	上山 冬雄
執行役員	渡邊 知行
執行役員	山口 勝正
執行役員	スティーヴン R. ショット (Stevan R. Schott)
執行役員	池森 洋二

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の〈〉をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。